

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

9/10

統計リテラシー No.4

リスク比・オッズ比・NNT —— 治療効果の「大きさ」を数字で読む

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合否判定を行ってきた当事者です。治療効果を論じる問題で「有意差がありました」で終わる答案と、リスク比・NNTを使って効果の大きさを数字で論じた答案の評価の差を、採点者として繰り返し目にしてきました。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 医学研究の治療効果を論じる問題

東京大学・慶應義塾大学医学部の生物・医学系問題では、「この治療の効果をリスク比・オッズ比で評価せよ」という問題が出題される。有意差だけでなく効果の大きさを数字で示せる受験生は採点者（大学教員）に際立つ。

② NNTを使った臨床的意義の論述

「NNT=20とはどういう意味か、臨床的に解釈せよ」という問いは、医学部推薦入試・口頭試問で出題される。「20人治療して1人を救える」という解釈を即座に語れる受験生は突出する。

③ オッズ比と因果関係の解釈問題

「この研究のオッズ比2.5は何を意味するか、因果関係は言えるか」という問いは、医学部・薬学部入試で頻出である。オッズ比と因果推論の限界を論じられる受験生は採点者に「統計リテラシーがある」と評価される。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
東京大学 理科（医学部）	治療効果の数量的評価問題	リスク比・NNTが「有意差だけの答案」を超えた論述を可能にする
慶應義塾大学 医学部	臨床研究の効果量・解釈問題	NNTの解釈が臨床的意義の論述に直結する
京都府立医科大学・奈良県立医科大学	医学論文データの解釈・論述問題	オッズ比と因果推論の限界を論じる力が差を生む
薬学部・医学部推薦（全般）	「NNTとは何か」型の口頭試問	採点者（大学教員）に統計リテラシーを示せる

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

治療効果を「有意差あり」しか語れない受験生は、採点者が求める「効果の大きさの評価」を示せない。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）リスク比・オッズ比・NNTを計算して解釈できる、（2）臨床的意義を数字で論じられる、（3）口頭試問で「統計リテラシーがある受験生」として際立つ、という変化が起きる。

何十年も医学部の答案を採点してきた清光学院の講師陣は、治療効果の問題で「有意差のみの答案」と「効果量を数字で論じた答案」の評価の差を採点者として知っている。